

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営		
1. 理念と共有		
<input type="checkbox"/> 1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で地域の人を支えるケアのため、認知症についての理解を広めるために公民館で月1回地域サロンを開いている。地域の中で人として最期までその人らしく生活できるよう、職員で理念を作りあげている。	○ 月1回公民館で福祉相談を開いているが相談に来られる人が少ないので、ここに地域の相談窓口があるという事を知ってもらい啓発活動をしていきたい。
<input type="checkbox"/> 2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りノートに事業所の理念を書いており、毎日目を通すようにしている。読んだ人はサインをしている。日々気付いた事を共有し、申し送りノートの記録により支援を検討している。	○ 主に申し送りノートで理念の共有に向けて取り組んでいるが、管理者やリーダーはケアの中で浸透するため話しをする機会を設けている。
<input type="checkbox"/> 3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2カ月に一度運営推進会議をし、事業所の運営や介護、地域の認知症理解の啓発の場となっている。家族の方へ伝えたい事を月1回お知らせとして郵送している。	○ 家族の方に登録してもらい、メールマガジンを月1回送っている。地域の方にもお知らせし登録してもらえるよう広めていきたい。
2. 地域との支えあい		
<input type="checkbox"/> 4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩の中でお互いにあいさつをし、気軽に野菜やお花を頂く関係ができています。また、天候が悪くなると職員や入居者よりも先に地域の方から、「雨が降ってきたので洗濯物を取り込んだ方がいい」と電話を頂いたり、隣近所の日常的な付き合いができています。	
<input type="checkbox"/> 5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者や職員が地域の行事や活動に参加したり、逆に事業所のもちつき大会や流しそうめんに参加してもらったりと地域の交流の場となっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに役立つことはないか考え、法人内で地域の方へ講演会を開き、取り組んでいる。			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の勉強会を実施し、意味を理解した上で、評価を活かせるようにしている。地域と事業所で認知症の理解とケアについて共通の認識や地域貢献のために公民館で相談窓口として認知症の啓発をしてきた。また、事業所内では、利用者への支援が自己満足にならないように、振り返りを大切にしている。			
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で認知症の研修会開催の案内や講演会の案内をし、理解を深めてもらうため呼びかけ、また参加して下さる家族や地域の方もいる。			
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内で開く講演会や行事に参加してもらえるよう呼びかけている。			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の方の一人が成年後見制度を利用されており、その方を通して成年後見人という制度を身近に感じている。また、他の利用者家族に対して制度が必要かどうか常に検討している。			
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を開催し、虐待とはどういう事なのかを知識を深めると共に発見した場合は大きな声をあげれるようにしている。			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にしっかりと事業所の説明し、理解した上で契約してもらっている。不安や疑問を生じた場合は言っただけの関係や、こちら側から面会時に尋ねるようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が日々意見や不満、苦情を言いやすい雰囲気を作っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の方への連絡は密に取っている。健康状態についても家族にその都度連絡し、本人の状態にずれがないようにしている。職員の異動に対しては、面会に来られた時に説明している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に家族の要望や苦情を聞けるように関わっている。入居時や必要性が生じた時に外部者へも相談できる窓口を紹介したり、苦情を運営に反映できるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人内で各部会の勉強会を開催し、運営に反映できるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態に応じて宿直者や日勤者がつけるようにしたり、職員間で勤務が代われる体制を常々としている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は1階、2階、3階の利用者と交流しているので、利用者の状態を把握し、階が違って馴染みの関係がつくれている。法人内での異動もあるが当事業所全体の職員と連携がとれ対応している。</p>
5. 人材の育成と支援		
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>国や自治体の実施又は指定する認知症ケアに関する専門研修に参加したり、法人内で専門職が各部会に分かれて研修育成に取り組んでいる。今年度から、新しく認知症専門ケア加算もとっている。又、新人職員には、法人内で研修会を行いレポートを提出してもらい、介護や認知症について専門性を高められるよう指導している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の中に事業所があるという事を常に思っている。地域の人の交流や各事業所の相互訪問している。また市内の事業所の職員と研修会を通して交流につなげている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>新人職員には、里親制度を作り、先輩職員と仕事の事やプライベートの事など、何でも相談できるよう工夫している。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各自が向上心を持って働けるよう、個別に話しをしたりする機会を設けている。</p>
	<p>○</p> <p>目的や目標を持ち達成できた喜びが向上心につながるよう、職員一人ひとりが目的や目標が持てるよう、働きかけていきたい。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用までの間、面会を持ち、話しを聞いたことをもとに、利用に至ってから本人の表情や行動をみて、相手の気持ちを想像し、イメージするようにしている。本人から相談してもらえるような関係作りをしている。又、自分だったらどうなんだろうかと考え不安や求めているものをケアを通して気付いていくよう心がけている。	○ 情報の共有をし、本人が不安に思うことがないようにその人らしい場面や、不安でいる場面を知ろうとし、記録して残し、本人の想いを汲み取れるよう努めている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今まで入居された家族からこんな質問があったなど例を出したりしながら家族の困りごとを言いやすい雰囲気作りや受け止める努力をしている。ケアを通して、どんな要望があるのか、本人や家族に聞き、ケアを見つめ直し、ずれがないように努めている。	
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって、一番いい方法を選択できるように対応している。他のサービスも利用できるよう視野に入れて相談を受けている。	○ 面会時など、前ケアマネジャーなどサービス事業者や施設職員から情報をもらう機会を設けている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得されて入居される方は少ない。家族や本人にとって緊急性を要する場合はサービスをいきなり開始することもあるが、入居後本人が安心して、その人らしく生活できるようケアの中で気付いていくことを家族等と職員が連携をとり関わっている。	○ 本人が不安になってしまわぬようにサービス利用までの間に、本人や家族と話しをし、必要な情報をもらうようにし、本人が利用時に不安が少なくなるようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は対等な立場で接し、共に支え合う関係を築いている。職員は生活を共に過ごす中で入居者から教えてもらい学ぶことがある。共に、できたことを喜び、感動しあえる関係を築いている。	○ 次は、これをしよう、あれをしようという本人から言いたくなるような関わりをもっとしていきたい。こうしたいという思いを聞き逃さないよう、それに近づける努力をしている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居時に家族の要望、家族役割シートを書いてもらい、職員に全て任せるのではなく、家族の一員でいられるよう取り組んでいる。また、遠方に住まれている家族でなかなか会いに来られない家族には手紙や電話で近況を報告し共に利用者を支えていく関係を築くよう取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃から会話の中で家族の話しをし、家族の存在を身近に感じられるよう、本人と家族の関係が途切れないよう努めている。職員は、家族が利用者の為に持ってきて頂いた服や物であると日常の会話の中で利用者に伝えている。そして、離れて暮らしても家族の存在が感じられるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員が家族や本人から馴染みの人や場所との関係を聞いて把握したり、また私の生活歴シートなどを活用し本人がこれまで大切にしてきた馴染みの環境が途切れないよう、職員間で共有し支援出来るよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士お互いに助け合ったり、困った時はお互い様と協力しあえる関係を日頃の生活の中から作れるような関わりをしている。誰かが困っていたら必ず手を貸してくれる入居者がいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	折にふれ手紙やハガキを送り困った時は声をかけて頂けるよう取り組んでいる。	○	ホームページやメールマガジンなどを活用しサービス利用が終了しても、関係が続き付き合い合っていけるよう取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者がどんなことをしたいか思いや希望を知り、意向の把握に努めている。ケアに反映できるよう本人、家族の意向を知るようにモニタリングシートを用いて職員間で共有し、ケアカンファレンスで検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の時に話しを聞いたり、私の生活シートをご家族に記入して頂き活用している。また、写真を持ってきて頂いたり写真を見ながら家族と利用者のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方をうかがい邑での暮らし方のヒントにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	支援経過に記入し、職員は勤務につく前に支援経過に必ず目を通し、現状を把握し、ケアを行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人から、意見や要望を聞く関わりの中で、日頃からの様子を家族にも伝え、意見を聞き、ケアプランの中でどんな支えが必要なのか、どう暮らしたらいいか課題などを出し、計画を立てケアカンファレンスを行っている。	○ ご家族の方へケアカンファレンスに参加してもらえよう引き続き声をかけていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は、1カ月のケアプランを立て、その後6カ月のケアプランを立て定期的に見直している。又、現状の変化に合わせ、ケアプランの見直しをし、家族ともどうしていくか話をしっかりし、方向性、要望、ずれがないよう作成していく。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にはケアプランに基づきケアプランにそったケアのことで気づいたことを取り入れている。又、本人の意向、言葉、表情をふまえ、感情の変動も記録をし、共有し実践に活かしている。	○ 個別の記録の仕方についての勉強会を開き、職員一人ひとりの意識の統一、記録の活用の仕方を振り返り、日々の気づきを介護計画に活かせるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診や定期的通院時の付き添い支援など家族と協力し家族ができないところは柔軟に支援している。小規模多機能やデイサービス、グループホームと併設しているので、今まで通りの馴染みの関係が続けながら最期まで暮らしていけるよう支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察や消防の方、自治会や、馴染みの店などに運営推進会議や避難訓練に出席してもらい、認知症への理解を深め、協働できるように取り組んでいる。	○ 運営推進会議に継続して参加してもらえるよう働きかけていきたい。グループホームを理解し、入居者の生活が守れるように協働できるようにしたい。また、近所の保育所や幼稚園とも交流を深める機会を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の身体的状態に応じて、他のサービスの方が本人にとっていいと思った時には、家族に情報を提供し、他のサービスも利用できる旨を伝えている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい取り組みを知ってもらえるように働きかけている。	○ 公民館で地域サロンを通して、地域へ認知症の理解を深めていけるよう。又、馴染みの関係が作れ、協働できるように取り組みたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に、本人や家族の意見を聞いて、かかりつけ医を選んでいる。かかりつけ医と事業所の連携を密にし、いつでも適切な医療を受けられるように心掛けている。また、家族の連携も大切にすように心掛けている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>囑託医は、認知症の症状が強くでも、受け入れてくれる病院との連携やネットワークを持っており、紹介してもらったり、受診支援できる環境にある。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>毎日バイタルチェックをし、看護職員が健康状態が分かるようにしている。また、看護職員も入居者と共に生活する仲間として支えている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>本人が入院している病院と連携して、病状や状態の変化を常に知り、退院前より、退院後の生活支援に向けてみんなで話し合っている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時、面会時、ケアプランの説明時、その都度話すようにしている。また、入居者の少しの体の変化も必ず家族に伝えている。家族と職員のずれがないように、必要な時には、かかりつけ医に説明してもらったり、終末期どうするかを話し合ってもらい、後悔のない最期を迎えられるようにしている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医は、入居者の今の状態を把握できるように、介護職員の視点で2週間に一度入居者の状況を報告している。変化のある入居者には、その都度、報告している。職員の間でも緊急の対応を再度見直し、把握している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の当事業所での暮らしぶりや体調面など外泊時や移り住む時は、家族や他施設と十分に話し合う。また、次の施設や在宅でもその人らしく生活できるように、ケアの気付きをサマリーにして渡している。入居時から他の利用者と同様に関わっている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の居室の片付け、入浴時、排泄時に一人ひとりあった声かけに気をつけている。また、記録等は、見えないところに整理している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食事作り、買い物、整容などを通し、日々の生活の中で、入居者が選択できるよう自己決定につなげる働きかけをしている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>この時間にこれをするといった時間を決めていない。入居者の気持ちに寄り添えるようにしている。職員は、入居者が今まで過ごしてきた生活リズムを把握し崩さないように関わっている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者と一緒にその日に着る服を選んでいる。美容院は、家族といきつけの美容院へ行ったり、地域で親しみのあるところへ行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に冷蔵庫を見て、献立を考え、準備や食事作り全て行っている。一人ひとりのできる事を見極め、十分に発揮できるように関わっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人や家族との会話の中で聞き、おやつや飲み物に取り入れている。家族が面会時に本人の好きなものを持ってきてくれ家族と一緒に食べたり、他の入居者と一緒に談話しながら食べている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄シートを使い記入し、入居者一人ひとりの排泄パターンを知り、関わっている。安易にリハビリパンツを選択する事なく、家族・本人と話し合いのもと布パンツにこだわっている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にし、曜日や時間帯を決めず、好きな時に入浴してもらっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方を見直し、安眠や休息できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	他の入居者と生活を共にすることで、入居者自身が、自分で居場所や役割を見出している。また、洗濯や掃除など、入居者同士が助け合える関係を作っている。		

項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)			取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族や本人から預かっているお金の使い道を入居者と一緒に相談して使っている。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や買い物に行っている。散歩に行き、地域の人達と交流したりしている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>日々の会話の中で行ってみたいところをさりげなく聞いている。外食に出かけたり企画を立てて行く事もある。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状や家族の方に、自らがやり取りができるように支援している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>入居者の馴染みの方や家族が来られると居室でゆっくり話したり、リビングで他の入居者と共に一緒に過ごされている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>月に一度身体拘束委員会でどんな事が虐待なのか、意見を出し合い日々の介護を振り返り勉強している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は入居者が人として普通の暮らしができるよう常に考えながらケアをしている。常に入居者の立場に立ち、考える事で日中玄関に鍵をかけないことは当たり前のことだと認識している。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>入居者が今、何処にいるか、安全に生活できているか、職員同士で気づき共有できるように連携をとっている。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>裁縫道具や包丁を使用した後は必ず職員が数量を確認し、片付けている。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>日誌にヒヤリハット事例を書く欄を設けて活用している。事故報告書など勉強会やケアカンファレンスで取り上げ入居者のリスクに対しプライバシーに配慮しながら、ケアの方向性を話し合っている。</p>	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>職員は事故発生時に備え、緊急時の対応についての勉強会や法人勉強会を行っている。また、急変時に速やかに対応できるようマニュアルを作っている。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に1回消防署立会いのもと、避難訓練をしている。避難訓練の際、避難方法や誘導方法をアドバイスいただいている。また、アドバイスの内容をマニュアル化し、職員全員が共有できるようにしている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>家族に入居者の身体の変化をちょっとしたことでも報告している。報告の際、これから起こり得るリスクに対しても説明し当事業所でできるケアを家族と話し合っている。対応策についてはできるだけケアの力でできることを話し合うようにしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>職員は入居者の食事の量や顔色、普段の生活ぶりを把握し、記録に残して情報の共有に努めている。食事の量や顔色など見ながら生活を共にしているので早期発見しやすい。毎日一人ひとりのバイタルサインを測り状態の目安にしている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>どんな薬を飲んでいるか薬の説明書を職員は必ず目を通し、目的や副作用、用法を理解している。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員は便秘により入居者の心身の状態も左右されることを理解し、予防と対応に努めている。なるべく便秘薬や下剤にたよらず、1日飲水量の把握や食物繊維の多い献立にしたり、野菜ジュースなどの工夫や日常生活の中で散歩や家事の参加など身体を動かす働きかけをしている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>定期的に法人内の歯科衛生士に入居者の口腔内の状態を診にきてもらっている。一人ひとりに合わせブラッシング方法や歯科受診の必要性など相談し、口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりにあった食事量、水分の確保を職員や本人と相談しながら行っている。その日の体調に合わせて無理をせず、ジュースやおやつ等を取り入れたり、食感を変えジュースをゼリーにしたり工夫しながら水分や栄養が摂れるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対する予防や対応のマニュアルを法人内で作っている。職員はそのマニュアルを読み理解している。排泄物は必ず新聞紙にくるみ汚物専用のゴミ箱に捨てたり、職員入居者は必ずマイタオルを持ち手洗い等感染予防を実行している。また、月に1回感染症委員会を開き嘱託医からアドバイスを指導を受けている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理用具の衛生管理の取り決めを行っている。食品衛生管理チェック表を作り夜勤者が必ず実行し、チェックするようにしている。実際にできているかどうか、リーダーは記録の確認を行っている。</p>	
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関の戸は引き戸になっており、普通の家庭の玄関のようになっている。親しみやすく、安心して、出入りできるように季節のお花を入居者と飾り環境づくりをしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共通の空間にはソファを置き和室には座布団を敷き、家庭的である。入居者はリビングで過ごすことが多く、一緒に季節の花を飾ったり、季節の食材を使い、一緒に調理して、季節を感じてもらえるよう工夫している。換気をこまめに行い、入居者の過ごしやすい室温調節している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ベランダに出ると見晴らしがよく、ベランダで外を眺め過ごしている入居者もいる。リビングやベランダ、居室など、入居者は思い思いの場所で過ごしている。</p>	<p>○ 機能訓練室を交流の場として、活用していけるよう引き続き取り組んでいきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時は、なるべく布団やシーツなど自宅にあるものを持ってきていただいて、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。職員と一緒に布団を干したり、掃除したり、洋服の整理をし、居室が入居者にとって落ち着ける場になるよう心がけている。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気はこまめに行っている。暖房や冷房をかける時は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめな室温調整を心がけている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベランダの段差や階段はあるが、必ず職員が横で寄り添い声かけをしている。危険な場所がなく段を踏み越えることや手すりを持つことを忘れて危険を察知できる能力を忘れてしまうことの方が怖いと思っている。今できることが、持続でき自立した生活が送れるよう、職員がリスクについて話し合い共有して入居者の生活を支えている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>職員が入居者のできること、支えがあればどこまでできるか見極め関わっている。職員や他の入居者と一緒ですることでも失敗があっても「また、次できるようになればいい」、「次もしたい」と思えるような関わりをしている。</p>	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダのプランターに季節の花を植え、入居者と一緒で育てられるようにしている。夕方には、米のとき汁で水遣りをするのが習慣化されている。</p>	



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・できることを見つけ、できることが増え、できることの達成感や充実感を共有しあえ生活を支えている。
- ・時間にとらわれることなく、入居者が過ごせ、日々の生活の中で、生活リズムが自然と整えられている。
- ・入居者一人ひとりが相手のことを思いやり、お互いが助け合って、地域とつながっていけるよう支援している。
- ・3食、入居者と献立を決め、一緒に調理している。
- ・日中、玄関に鍵をかけることはせず、入居者が自由に入出入りできるよう支援している。
- ・トイレや浴室など表札をしていないが、入居者が混乱しないよう、側で寄り添い場所を覚えてもらえるよう取り組みをしている。
- ・地域の方へ認知症理解を深めていただけるよう、福祉相談を公民館で開いている。また、法人内で行っている福祉講演会へ地域の方に参加していただいたり、日々の利用者との散歩や買い物の中で地域の方々と利用者がふれあえるよう取り組んでいる。
- ・3階機能訓練室を利用し、月に2回パン屋 邑 をしている。利用者が主体となりパン作りに喫茶のお接待をし、地域の方に来ていただいている。地域の方の地域サロンになったり、地域の方との交流の場となっている。